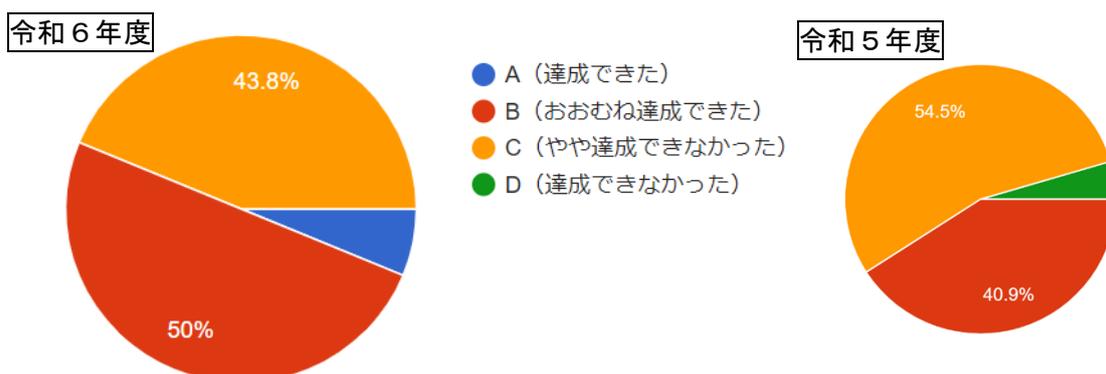


令和6年度 学校自己評価（中間）まとめ

今年度、城下小学校では、学校教育目標「まなび きたえ ともにのびる子 ～今を・未来を喜びをもって生きる子ども～」のもと、「自分で考え動き出す力」「関わり感じる力」を重点目標に据えて、全職員で取り組んでおります。今年度前半の取組について、学校職員でふり返しを行いました。成果と課題を見極め、学校運営の後半に生かし、よりよい学校づくりをめざしていききたいと思います。

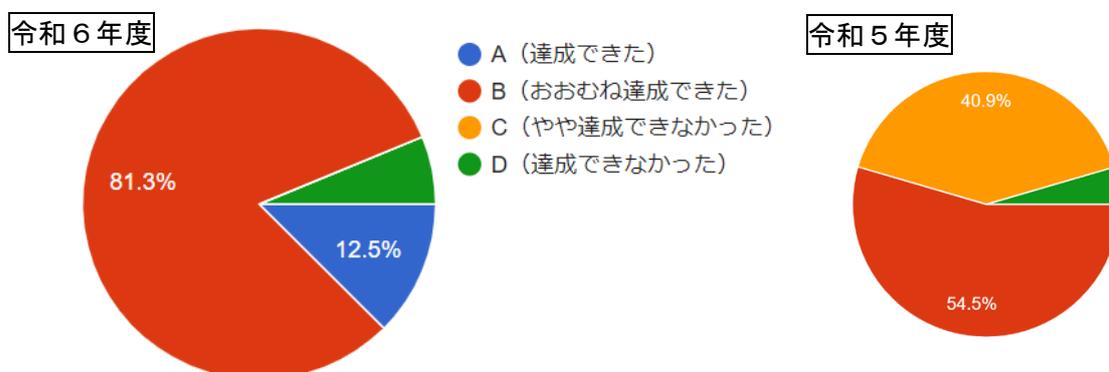
1. 今年度の重点目標

(1) 自分で考え動き出す力



- ・特に学習面で、自分の苦手なところを分析したうえで、自分にあった内容を学習する自己調整学習を取り入れた。自分にあった学習をすることの有用性については、子どもたち自身も感じられた様子があるのが成果である。
- ・総合の活動に対して前向きに取り組む、自分たちが活動したいことを表現したり、ねがいをもって活動のスタートを切ったりすることができた。うえだみどり大根に関心を持ち、自主学习でオリジナルキャラクターをつくったり、チラシを作ったりする姿も見られ始めている。
- ・「自分で考え動き出す力」は、ある程度の選択肢を与えること・見通しをもたせた上での自主性だと思うので、見通しをもたせることまでで終わってしまうことも多かった。安心感をもって自主性を育める活動をしていきたい。

(2) 関わり感じる力



- ・なかよしペアとの関わりの中で、相手を思いながら試行錯誤しながら行動している姿がたくさん見られた。このような経験を多くさせたい。
- ・うえだみどり大根の活動で生産者組合の方々と関わりながら活動することを通して、作物を育てることの大変さを実感することができたり、作物に寄せるねがいを感じたりして、自分たちもできることをしたい、協力したいという思いをもって活動に向かい始めることができています。
- ・生き物や友達、学習での文章や具体物を通して、「これって・・・？」と発見につながるがあった。

校外に出て活動することが多く、地域の方々との繋がりを大事にできたと思う。後期も地域との繋がりを大事にした学習を進めていきたい。

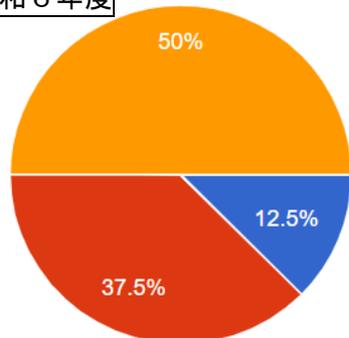
- ・お互いに教えあう、共に頑張って成果を出す体験などを授業や、金管の活動などで体験させることが出来、お互いに良さを感じとることができたのではないかなと思う。さらに関わる活動をしていけるように授業等考えていきたい。
- ・友だちや先生だけではなく、地域の方や専門的な方などに関われる機会は多くなっている。その中で、幅広いものの見方やコミュニケーション力が身につけてくれるといいと思う。

2. めざす子どもの姿

(1) 自ら求めて学び合う子ども

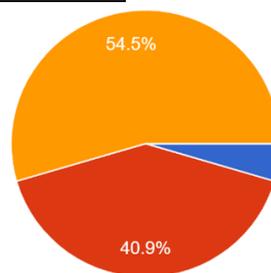
【学習問題の設定】

令和6年度



- A (達成できた)
- B (おおむね達成できた)
- C (やや達成できなかった)
- D (達成できなかった)

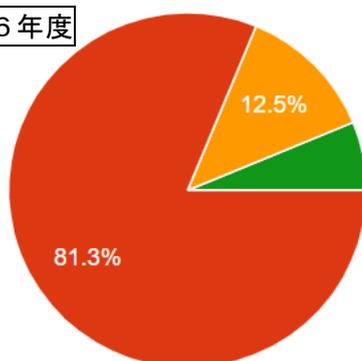
令和5年度



- ・自分で考えてみたいという学習問題が設定できた時には、とても主体的に動いて授業も進んでいく。毎時間、難しくうまくいかないことも多いが、そこをうまく見つけられるように意識していきたい。
- ・教科書で扱う内容について、子ども達の身近な生活場面から学習問題を設定したり、毎日プリントの教材を作ったりして授業を実践している先生の姿から学んだ。子ども達の学習に対する意欲も大きく高まってきたと思う。
- ・「なぜ」「どうして」「どのように」をキーワードに子ども個人の「問い」の作り方も学んできた。「問い」をつくることやもつことで、学ぶ楽しさを感じる子どもの姿が見られるようになっている。
- ・今日やることを明確にすることは、子どもたちの意識が同じ方向に向き、学習内容が深まっていくと感じる。子どもたちの意識ややりたいことから設定できる時間を増やしたい。
- ・「主体的な学び合いのための手立て」を児童の問題意識を大切にしながら考えることができた。児童の問題意識と主体的な活動はつながって存在しているので、さらに授業改善を進めていきたい。
- ・教師が準備して生み出す問いも大切だが、子どもたちが価値のある問いを見出せるように育てていくのが課題であると感じる。

【協働的な学び】

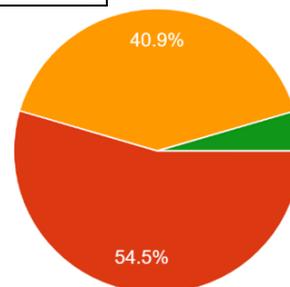
令和6年度



- A (達成できた)
- B (おおむね達成できた)
- C (やや達成できなかった)
- D (達成できなかった)

【対話的個人追究】

令和5年度



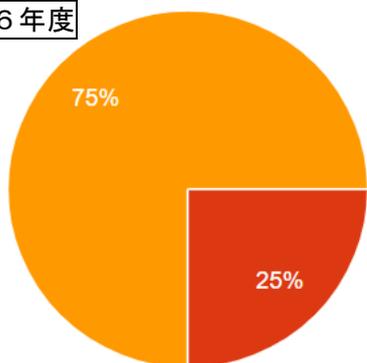
- ・ペアやグループ活動を取り入れ、少人数の中で話し合っていくことはできるようになってきた。大人数になると消極的になってしまう児童を支援していきたい。
- ・様々な場面で、グループ学習を取り入れた。友だちに自分の意見を認めてもらえることが自信に

つながったので良かった。今後は、友だちの意見からさらに考えを深めるところまで発展してほしい。

- 本当の意味での「協働」「学び」にならない点が課題であった。ただ、グループで行う形だけの学習が多くなってしまった。追究する問いが子どもたちから出てきた問いであると協働的な学びになると思われるので、そのような授業に取り組んでいきたい。
- 協働的な学習の機会は少しずつ増やせるように意識しているが、ただ単に「一緒に学ぶ」のではなく、どういった目的で、どういった形態で取り入れていくかをさらに考えていきたい。

【聴く力の向上】

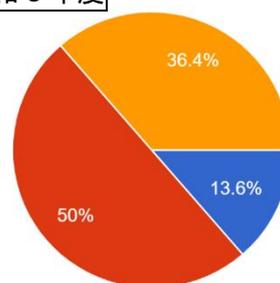
令和6年度



- A (達成できた)
- B (おおむね達成できた)
- C (やや達成できなかった)
- D (達成できなかった)

【学習環境の整備】

令和5年度

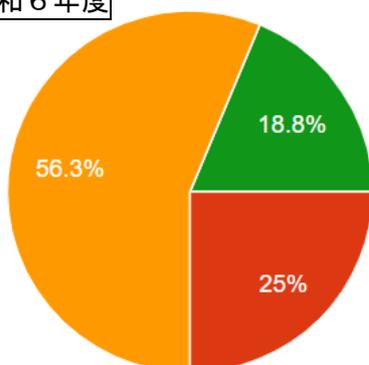


- 日々の朝の会での活動や学習活動などを通して、話をしている人を見ることが身につけてきたが、最後まで話を聞くことが課題であるため、引き続き聴くことの指導を継続していきたい。
- 自分事として聴けない子が多いと感じるので、低学年の段階から形式的な「聞く」ではなく「聴く」習慣をつけられるといいと思う。
- 聴くということ、傾聴するということは心を相手に寄せることで、そこはまだまだ改善の余地があるように思う。今学期の課題でもある。
- 聴く前の姿勢づくり、視点をきちんと合わせるなど、毎回繰り返し指導している。定着には時間がかかるが、今後も根気よく指導していきたい。

(2) 明るくたくましい子ども

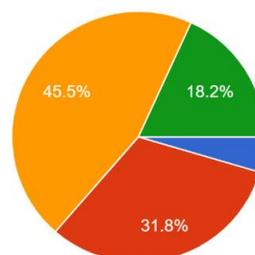
【無言清掃の充実】

令和6年度



- A (達成できた)
- B (おおむね達成できた)
- C (やや達成できなかった)
- D (達成できなかった)

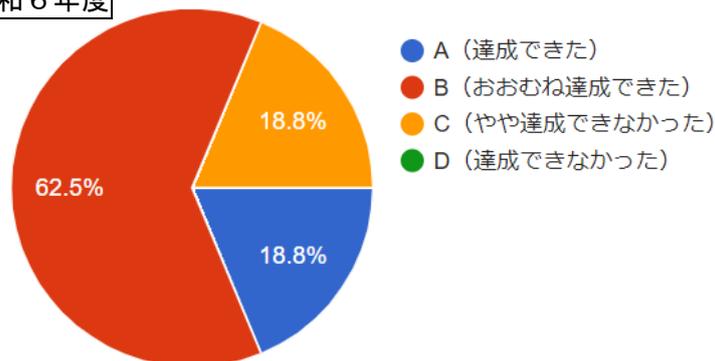
令和5年度



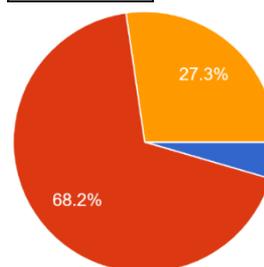
- 個人差が大きいです。黙々と一生懸命に取り組むことができるようになっている様子がある。無言で行うことへの意識を高められるようにしたい。
- 無言は難しいが、自分たちの教室を雑巾で床掛けをすることに、いきいきと取り組んでいる姿がある。仲間と一緒にやるよさが見られる。
- 「無言」は徹底されていないとはいえ、一生懸命清掃に向かっている子ども達の良い姿は各所で見られる。「無言清掃」を通して清掃に対する個々の意識を育てていく取り組みや職員の声掛けを大事にしたいと思う。
- 清掃のやり方自体は上達しているように感じるが、「無言清掃」となるとまだ難しい。個人差、学年差があるので、全校統一した指導や継続した企画ができるとよい。

【心を交わす挨拶】

令和6年度



令和5年度

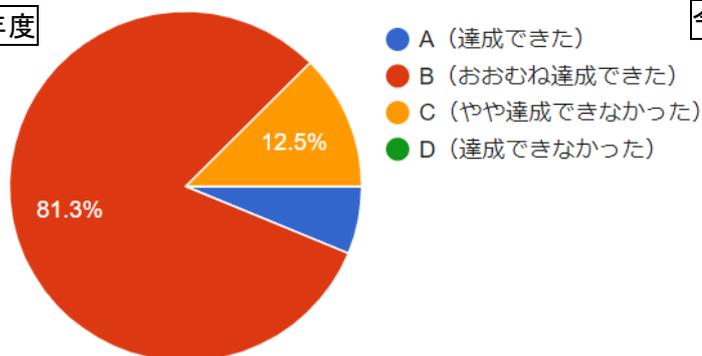


- ・校長先生を中心に、全校の意識が少しずつ変わってきているように思う。次の一手を考えながら、さらに挨拶の輪が広がればいいと思う。
- ・校長先生が「あいさつ」を重視した内容のお話を継続されていたので、学級でも継続的に話をする事ができた。校長先生のような挨拶の工夫を委員会などでも応用できないかと思う。
- ・朝の児童玄関では、校長先生への挨拶ができる児童が増えたのかなと思う。校舎内に入ると、「挨拶する」という意識が抜けてしまう児童が多いように感じる。挨拶は朝だけではないので、その都度（職員室等の入退室時や来客への挨拶、授業の挨拶など）大事にしていきたい。
- ・「心を交わす」という部分が少し抽象的でわかりづらいので、具体的にどのようなあいさつの姿を目指していくのか、職員で共通認識が持てればいいと思う。

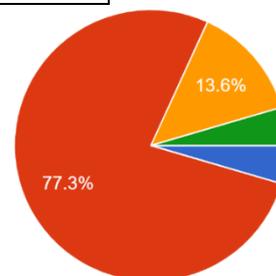
(3) 友や地域と関わり感じ合えるこども

【温かく関わり合う学級】

令和6年度



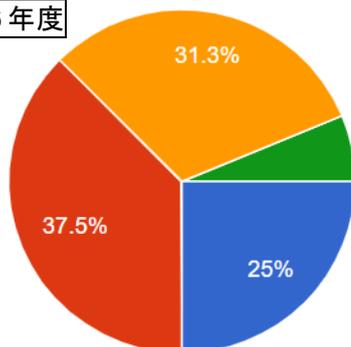
令和5年度



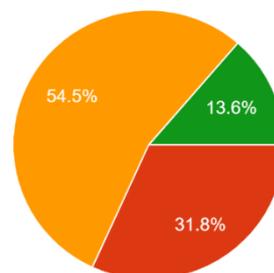
- ・高学年は子ども同士の付き合いの時間が長いこともあり、友だちのことをよくわかって行動している姿がある。そのためあたたかく受け入れられる姿が見られる。
- ・様々な個性の友だちを認め合ったり、助け合ったりする姿を見ることができた。友だちの気持ちを考えずに、きつく当たってしまう場面もあるため、さらに温かく関わってほしい。
- ・泣いていると声をかけたり近くの先生に知らせたりする姿がある。また、何か困った時にみんなで解決方法を考えることができる姿がある。
- ・困っている子がいたら声をかけてあげられる。イライラしている子がいたらそっとしておいてあげる。そんな配慮ができる子たちが多い。
- ・学習での教えあいや、一緒に・・・しようという声かけができていた。

【地域と関わりよさを感じる】

令和6年度



令和5年度



- A (達成できた)
- B (おおむね達成できた)
- C (やや達成できなかった)
- D (達成できなかった)

- ・米作りではたくさんの地域の方にお手伝いいただき、子どもたちもそのありがたさを少しは感じることができた。もう少し地域の方とつながったり、地域の人を介したりした活動ができるとよいと思う。
- ・こすもす広場が好きな子どもが多く、高学年でもとても楽しみにしている子どもが多くいるため、このようなところでも地域の方との関わりが持っていて学んでいけるので続けてほしい。
- ・こすもす広場や、総合などで地域の方に関わっていただいて温かい気持ちになり、良さを感じることができている。
- ・読み聞かせやこすもすひろばで、こどもたちの表情がいきいきとしている。
- ・総合における地域探検での地域講師からの学び、うえだみどり大根の活動における生産者組み合わせの方や市役所の方などと積極的にかかわりながら学習を行うことができた。後期は、一方的に教えてもらうだけで終わるのではなく、こちらからも地域や地域の方に対して何ができるかを考えて活動し、互いに Win-Win な関係を構築したいと考えている。